

まちの話 題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。
問い合わせ 市広報秘書課 ☎43・8113



津屋崎千軒の町並みを生かして

第21回 津屋崎千軒よっちゃん祭



▲必死に山笠を昇く小学生とそれをサポートする大人たち

明治から残る古民家など、町のあちこちが会場となり、思い思いの店が立ち並ぶ二日間。「津屋崎千軒よっちゃん祭」が、4月21日と22日に開催されました。豊村酒造など3拠点での開会式を皮切りに、当日配布されたマップを見ながら会場を散策。快晴の下、通りを埋めつくすほどの人が来場し、町中どこに行っても大賑わいでした。

紙芝居自転車や仮装した武士と子ども忍者が会場を巡るなど、そこに居るだけで楽しめる企画の数々。通り沿いにはたくさんの椅子やバンコ（縁台）が設置され、「ホッと一息つける」津屋崎らしさが表現されていました。

また、小学生が昇く「子ども山笠」が津屋崎のまちを勇壮に駆け抜けました。山笠に乗せる人形は、人形師に指導を受けて子どもたちが作成したもので、本格的な山笠が出来上がっていました。

玄界灘で獲れた天然真鯛を味わう

ふくつの鯛茶づけフェアがスタート



▲特産品の真鯛がたっぷりの鯛茶づけ

8回目の開催となる「ふくつの鯛茶づけフェア」が始まり、21の協賛店がオリジナルの鯛茶づけを提供しています。フェアを主催する福津市観光産業活性化協議会の高島亮一会長は「いろいろな鯛茶づけを食べられるのがこのフェアの良さです。福津の旬の味覚を堪能してほしい」とおすすめしています。フェアは7月1日（日）までの期間限定です。お気に入りの一膳を見つけて行きましょう。

藍色に染めたシャツに大喜び

保育園で藍染め体験



▲藍色の液で染色する園児

津屋崎保育園の園児が、5月15日に藍染め体験をしました。先生や保護者と藍染めを楽しんだ園児は、藍色に染めたシャツを自慢げに見せてくれました。指導した「津屋崎藍いろの会」の洪田和美さんは「活動を始めて14年が経ちました。藍染めが人をつなぎ、地域に根付いていくのをうれしく思います」と語りました。

地域の人に学ぶクリームスイカ

上西郷小学校でスイカの苗植え



▲真剣な表情で苗を植える小学生

市内の小学校では、コミュニケーション・スクールを推進しており、地域の人に学んだり地域の特色を体験したりする取り組みをしています。4月30日に、上西郷小学校の5年生18人がスイカの苗を校庭に植えました。JAむなかた青年部の皆さんから植え方など指導を受けながら、普段慣れない作業に悪戦苦闘。苗の中には、黄色い実が特徴で、市の特産品クリームスイカもありました。

厳しい訓練で鍛えた技術を披露

第8回福津市消防団消防操法大会



▲自動車ポンプの部優勝の第10分団矢山さん(右)と伊東さん(左)

消防団は、火災時の消火活動のほか、地域の防災に11分団が参加。自動車ポンプと小型ポンプの2部門で日々の訓練で習得した技術を披露する競技大会を2年に1度開催しています。4月22日に開催した消防操法大会では、実際の火災現場での消火を想定し、全11分団が参加。自動車ポンプと小型ポンプの2部門で操作の迅速さや正確さを競いました。各分団が一致団結し、応援する団員も大声を張り上げます。

季節外れの暑さに負けず、機敏な動作で約60メートル先の標的を目指しました。自動車ポンプの部では、第10分団が優勝し、第6、第4分団とともに6月17日の宗像地区大会に出場します。小型ポンプの部では、第7分団が優勝。7月22日の福岡県大会に出場します。

地域のつながりを防災のために

市消防団第一分団の消防格納庫にアート



▲絵をデザインした永野恵里佳さん

県立光陵高校の美術部員が部活動の時間を使って、消防格納庫のシャッターに絵を描きました。これは、元第一分団長で光陵高校PTA会長の濱秀樹さんが発案したものです。光陵高校美術部部長の和田嵩祥さんは「この絵を見た地域の人が火の用心の意識を持ってくれたら」と防災につながることを願っていました。